

記念物  
【名勝】

みやら どうんちていえん  
宮良殿内庭園

指定年月日／1972（昭和 47）年 5 月 15 日  
所在地／大川 178



宮良殿内庭園は、建物と同じく 1819 年、宮良間切頭職の当演の時に作庭されたといわれ、首里の庭師・城間親雲上ぐすくまべーちんの設計指導によるとされる。

庭園は、地元産の琉球石灰岩を主材料として、五つの岩山（築山）を北から南に向かって次第に低く築いている。一の築山には石段を設け、上がった所は平地となっている。二の築山と三の築山との間に枯滝を落とし、滝の中程に弧状の石橋を架ける。三の築山と四の築山は、二つの橋脚を持つ石橋で結び、四の築山と五の築山は岩島風に作庭されている。築

山全体に多くの草木を配し、緑と石灰岩の白さが美しい景色を作っている。築山の前面は平らな砂地にして、底下の左手には一群の岩を組み、右手に蹲踞つくばいを据えてある。

宮良殿内庭園は、石材や植え込まれた草木など南国的な趣があるが、その様式は日本庭園の伝統を踏まえたものであり、日本庭園の琉球への伝播をみるうえで貴重である。また、近世琉球の地方における上流階級の庭園作りを最もよく伝えているもののひとつである。

記念物  
【名勝】

いしがき していえん  
石垣氏庭園

指定年月日／1983（昭和 58）年 10 月 27 日  
所在地／新川 287



石垣氏庭園は 1800 年頃、大浜間切頭職の 7 世長演の時に作庭されたと伝わるが、宮良殿内庭園と同じく 1819 年の説がある。石垣家には首里の庭師・城間親雲上ぐすくまべーちんから大浜親雲上に宛てた『庭作不審書』という造園設計書が伝わっており、石垣氏庭園の作庭も宮良殿内庭園と同じく城間親雲上とする説がある。

庭園は、住宅の一番座の前方、東面の石垣に沿って位置する。地元産の琉球石灰岩を主な材料とし、五つの岩山（築山）を、北を高く南に向かって次第に低く築いている。これらを石段や

石橋などでつなぎ、三の築山と四の築山との間に枯滝を落とし、石橋を設け、四の築山と五の築山は岩島風に作ってある。前面は平らな砂地とし、住宅東側の底下には左手に一群の立石を組み、右手に砂岩の蹲踞つくばいを構えるとともに、背後にはフクギ、築山にはソテツなどを植え込んでいる。全体的に植栽は少なく、岩本来の姿を現す庭園となっている。

石垣氏庭園の構成となっている地割は、宮良殿内庭園と酷似しており、いずれも日本庭園の伝統様式を踏まえつつも、地元産の石材や南国的な植栽が、地方色豊かで独特の趣をみせる庭園となっている。